

## ブラジル

景気  
(実質)  
GDP

Q1 GDP成長率  
**-5.4%**  
前年同期比

### 【金融市場は好調】

政変期待や高利回り選好から海外資金流入、金融市場は活況。一方で、非常事態宣言発令のリオ州始め財政難悪化、汚職めぐる政局混迷など先行き不透明。

物価  
(CPI)

6月インフレ率  
**+8.84%**  
前年同月比

### 【1年1か月ぶり低水準】

食品は依然高水準(前年比+13%)も住居・交通費がやや鈍化。一方で最大都市のサンパウロでは前月より上昇示すなど、依然予断許さぬ状況。

金融  
政策

**14.25%**

### 【タカ派的姿勢】

中銀は「17年のインフレ目標+4.5%へ収束すべく当面緩和余地なし。また財政収支の改善が緩和の大前提。」と、インフレ抑制強調し、早期利下げ観測けん制。

国際  
収支

5月経常収支  
**+12**  
億米ドル

### 【大幅改善】

テメル暫定政権への期待、商品市況回復を背景に輸出および直接投資が好調。内需低迷を受けた輸入減で、前月を大幅に上回る黒字計上。

為替

	(6月末)	1か月間 (5月末)	3か月間 (3月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1レアル=32.11円)		(30.66円) <b>↑4.74%</b>	(31.33円) <b>↑2.50%</b>	(30.37円) <b>↑5.75%</b>
対ドル (1ドル=3.21レアル)		(3.61レアル) <b>↑11.05%</b>	(3.59レアル) <b>↑10.61%</b>	(3.96レアル) <b>↑18.90%</b>

### 【1年ぶり高値も上値重い】

米国利上げ時期後ずれ観測や、世界的なリスク資産回帰を受けレアルは1年ぶり高値。一方、輸出下支えのため、中銀はリバス通貨スワップでレアル売りドル買い介入、上値に重し。

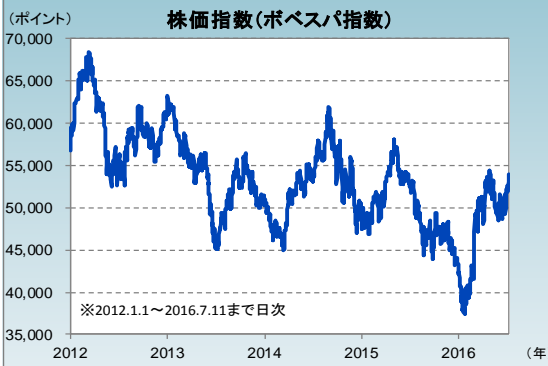
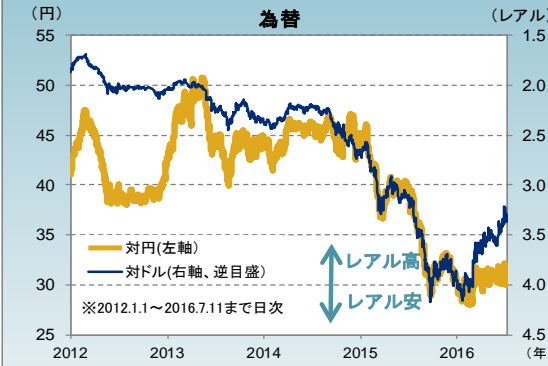
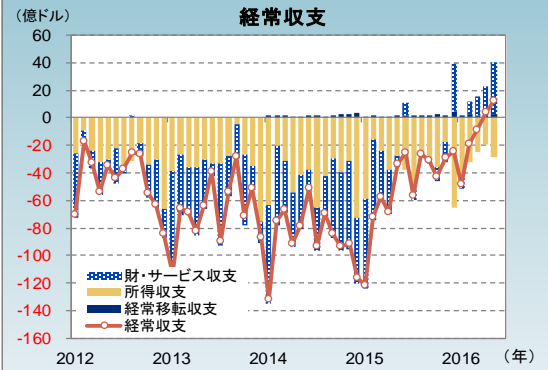
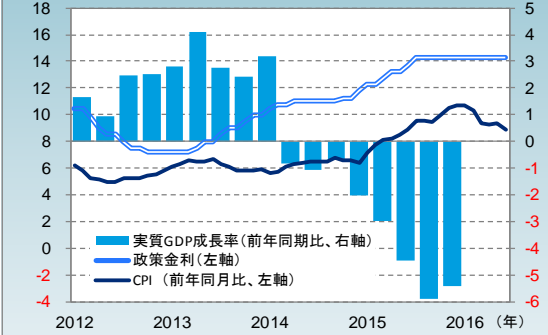
株式

	(6月末)	1か月間 (5月末)	3か月間 (3月末)	年初来 (15年12月末)
ボベスパ指数 (51,526.93)		(48,471.71) <b>↑6.30%</b>	(50,055.27) <b>↑2.94%</b>	(43,349.96) <b>↑18.86%</b>

### 【期待膨らむ】

新政権の構造改革期待を背景に海外からの投資資金流入が旺盛。一方で、レアル高が輸出企業の重しに。

実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



## オーストラリア

景気  
(実質)  
GDP

Q1GDP成長率  
**+3.1%**  
前年同期比

### 【政治不透明】

ターンブル首相率いる与党の保守連合が辛うじて勝利。長引く財政赤字に加え、政局難で構造改革が遅れるとの理由でS&Pは見通しをネガティブに変更。

物価  
(CPI)

Q1インフレ率  
**+1.3%**  
前年同月比

### 【デysinフレ圧力】

5月小売売上が前月比+0.2%と市場予想下回る。生活防衛色高まり、高額消費低迷。極めて低いインフレ継続。

金融  
政策

**1.75%**

### 【3会合連続据え置き】

非常に緩慢な賃金・物価上昇圧力、海外のデフレ圧力を受け、さらなる金融緩和に含みを持たせる。豪ドル高もけん制。

国際  
収支

5月貿易収支  
**-22**  
億豪ドル

### 【赤字拡大】

鉄鉱石やコークス用炭が増え、輸出は前月比+0.7%。一方で、原油高を反映し輸入が同+2.2%と赤字拡大に寄与。

為替

### 〈騰落率〉

	(6月末)	1ヵ月間 (5月末)	3ヵ月間 (3月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1豪ドル=76.89円)		(80.08円) <b>3.98%</b>	(86.20円) <b>10.80%</b>	(87.60円) <b>12.23%</b>
対ドル (1豪ドル=0.75ドル)		(0.72ドル) <b>3.00%</b>	(0.77ドル) <b>2.69%</b>	(0.73ドル) <b>2.25%</b>

### 【上値限定的】

中銀の豪ドル高けん制発言やS&Pの格付け見通し、さらには政治的不透明感から上値限定的か。

株式

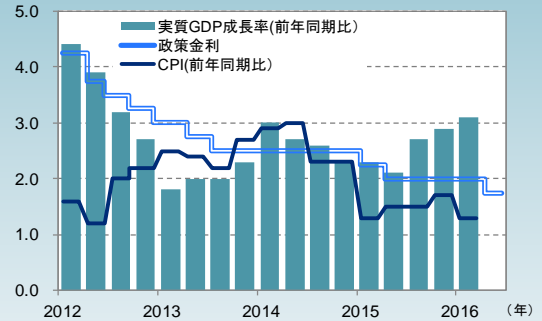
### 〈騰落率〉

	(6月末)	1ヵ月間 (5月末)	3ヵ月間 (3月末)	年初来 (15年12月末)
S&P/ASX指数 (5,233.38)		(5,378.56) <b>2.70%</b>	(5,082.79) <b>2.96%</b>	(5,295.90) <b>1.18%</b>

### 【内外要因】

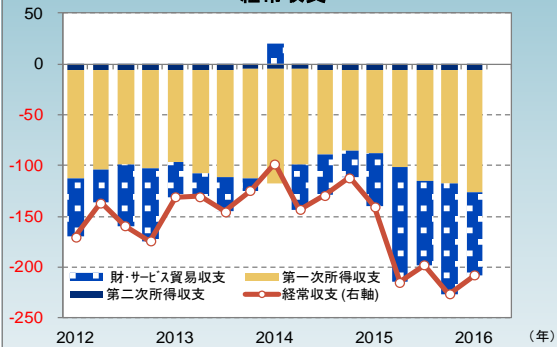
Brexit(英国のEU(欧州連合)離脱)による世界経済減速懸念から原油価格が低迷、資源株の重しに。政治的不透明感も金融株の売り圧力に。

実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



(億豪ドル)

経常収支



(円)

為替



(ポイント)

株価指数(S&P/ASX200種)



## トルコ

景気  
(実質)  
GDP



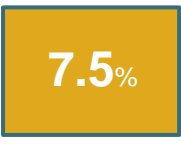
**[ロシア関係改善]**  
昨年11月のロシア軍機撃墜をエルドアン大統領が謝罪し関係修復、制裁は解除。賃上げによる家計購買力向上や、隣国シリア難民流入で消費活況。内需堅調。

物価  
(CPI)



**[インフレ加速]**  
ラマダンの影響で食料品上昇(前年比+6.63%)、インフレ加速。ロシアへの農作物輸出再開となれば、上昇の懸念も。

金融  
政策



**[利下げ期待高まる]**  
大統領からの利下げ圧力もあり、上限金利を4会合連続引き下げ(9.5%→9.0%)、透明性向上のため、政策金利の一本化を目指す。

国際  
収支



**[金輸出]**  
英国国民投票前の駆け込み需要を受け、英国向けの金輸出が急増、前年比-25%の赤字縮小に貢献。

為替

〈騰落率〉

	(6月末)	1か月間 (5月末)	3か月間 (3月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1リラ=35.87円)		(37.55円) <b>4.47%</b>	(39.96円) <b>10.23%</b>	(41.25円) <b>13.04%</b>
対ドル (1ドル=2.88リラ)		(2.95リラ) <b>2.44%</b>	(2.82リラ) <b>2.13%</b>	(2.92リラ) <b>1.38%</b>

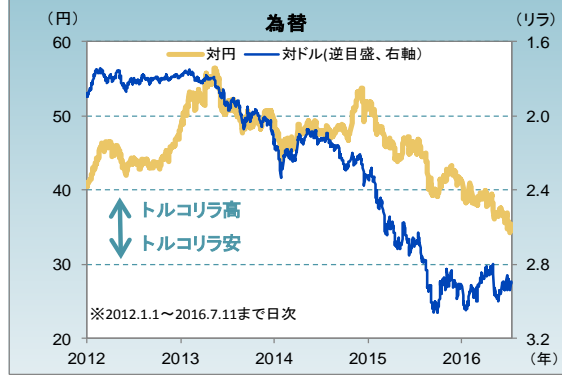
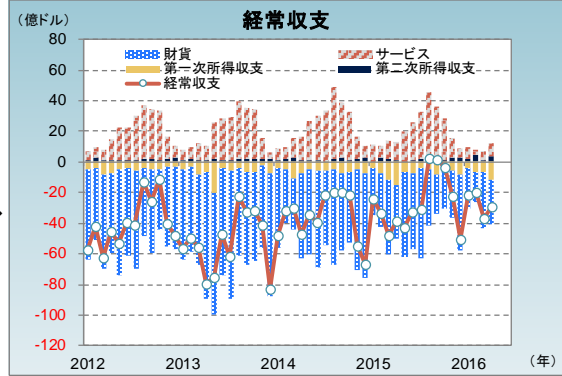
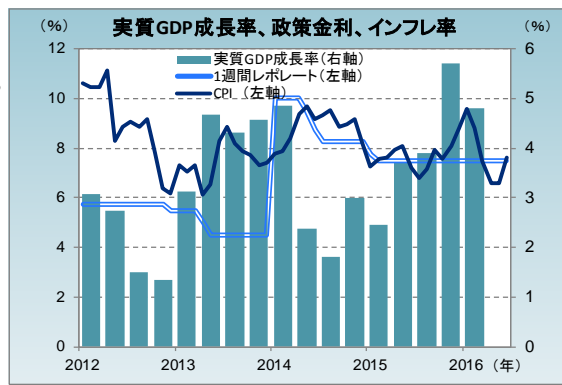
**[ロシアとの関係改善]**  
英国のEU離脱問題に振られるも、ロシアやイスラエルとの関係改善期待を受けて、リラ堅調。

株式

〈騰落率〉

	(6月末)	1か月間 (5月末)	3か月間 (3月末)	年初来 (15年12月末)
イスタンブール 100種指数 (76,817.19)		(77,803.41) <b>1.27%</b>	(83,268.04) <b>7.75%</b>	(71,726.99) <b>7.10%</b>

**[観光部門脚光]**  
ロシアのプーチン大統領はロシア人のトルコ旅行を制限する制裁を解除。観光部門の好転期待で底堅い。



## メキシコ

景気  
(実質)  
GDP

Q1GDP成長率  
**+2.7%**  
前年同期比

### [見通し引き下げ]

中銀総裁は世界経済減速懸念や英国のEU離脱問題の中でも、16年は2.4%-2.5%近い成長達成との自信。利上げが停滞傾向にある景気に水を差すおそれも。

物価

6月インフレ率  
**+2.54%**  
前年同期比

### [やや沈静]

生鮮食品やエネルギー価格下落の影響で市場予想より低い上昇率。中銀目標の+3%を1年以上下回る低インフレが継続。

金融  
政策

**4.25%**

### [今年2度目の利上げ]

史上最安値圏にある通貨下支えのため、市場予想上回る利上げ幅。さらなる通貨下落には米国よりも前倒しの追加利上げ示唆。

国際  
収支

5月貿易収支  
**-5.3**  
億ドル

### [貿易赤字縮小]

輸入減少傾向の中、ペソ安を背景に主力である工業製品中心に輸出が回復(4月前年比-7.8%→5月+0.3%)貿易赤字縮小に寄与。

### 〈騰落率〉

	(6月末)	1ヵ月 (5月末)	3ヵ月 (3月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1ペソ=5.64円)		(6.00円) <b>5.84%</b>	(6.51円) <b>13.55%</b>	(6.99円) <b>19.26%</b>
対ドル (1ドル=18.28ペソ)		(18.47ペソ) <b>1.00%</b>	(17.29ペソ) <b>5.75%</b>	(17.20ペソ) <b>6.28%</b>

### [利上げで反発]

反移民政策を掲げるトランプ米大統領候補の台頭、英国のEU離脱問題で大きく下落するも、利上げ後は反発の動き。

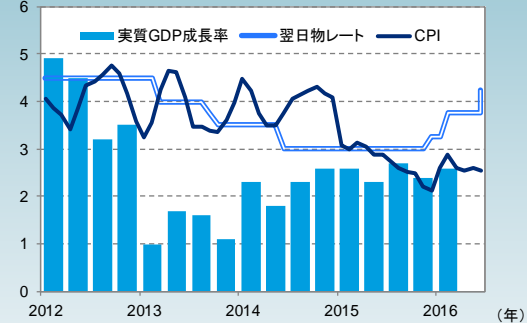
### 〈騰落率〉

	(6月末)	1ヵ月 (5月末)	3ヵ月 (3月末)	年初来 (15年12月末)
ボルサ指数 (45,966.49)		(45,459.45) <b>1.12%</b>	(45,881.08) <b>0.19%</b>	(42,977.50) <b>6.95%</b>

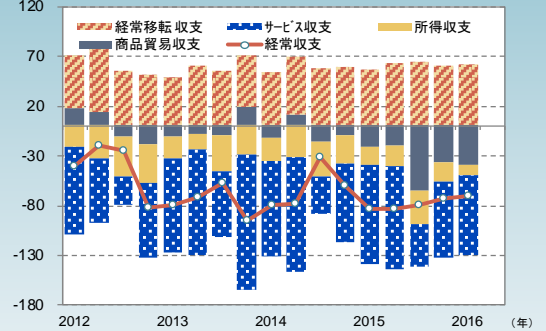
### [銀が上昇]

需要増を受け銀価格は、Brexit前比+18%と急上昇。銀・金を保有する鉱山株が反発。

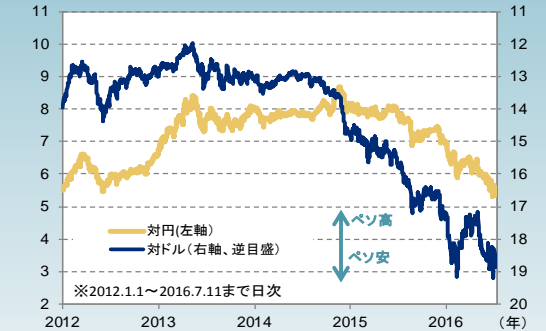
実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



経常収支



為替



株価指数





## 南アフリカ

景気  
(実質)  
GDP



### [IMF見通し低下]

IMF(国際通貨基金)は16年成長率見通しを0.6→0.1%へ下方修正。中国経済や国際金融市場の不安定化、国内政治不安を理由にさらなる下振れリスクも示唆。

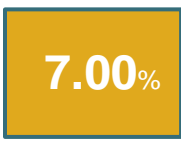
物価



### [3カ月連続減速]

食品価格上昇がやや緩和。ラニーニャの影響で年末までの降雨量が例年上回り、食品価格上昇抑制に寄与する見通し。

金融  
政策



### [利上げ小休止]

インフレ圧力後退で当面据え置きか。IMFは脆弱な景気が物価上昇の抑制に寄与するとし、利上げ打ち止めを提言。

国際  
収支



### [経常赤字拡大]

商品価格の回復や通貨安にもかかわらず輸出伸び悩み、経常赤字はGDP比5%と全四半期の4.6%から拡大。

為替

### 〈騰落率〉

	(6月末)	1カ月 (5月末)	3カ月 (3月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1ランド=7.01円)		(7.05円) <b>0.61%</b>	(7.62円) <b>8.08%</b>	(7.78円) <b>9.92%</b>
対ドル (1ドル=14.74ランド)		(15.71ランド) <b>6.17%</b>	(14.77ランド) <b>0.18%</b>	(15.48ランド) <b>4.75%</b>

### [Brexitの影響]

格付け会社ムーディーズは、経常赤字とリスクマネーへの脆弱性を理由に、英国への依存度が高い南アフリカについてBrexitの影響を最も受ける可能性を示唆。

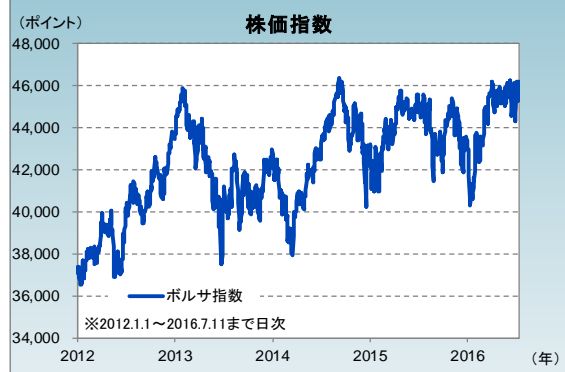
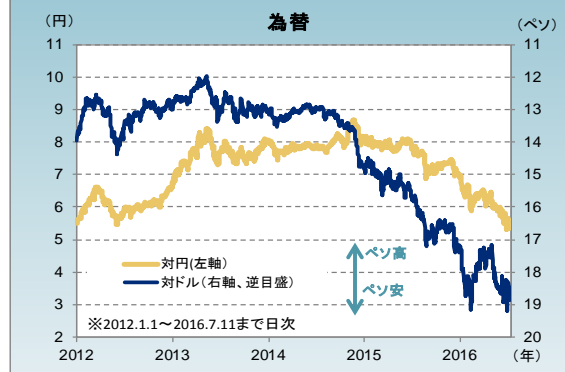
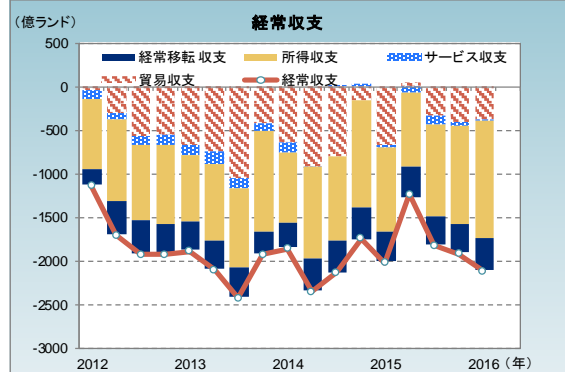
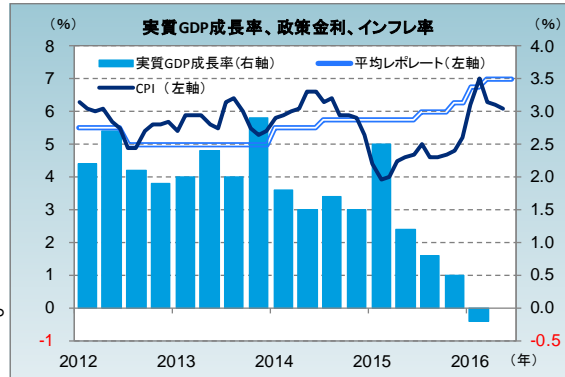
株式

### 〈騰落率〉

	(6月末)	1カ月 (5月末)	3カ月 (3月末)	年初来 (15年12月末)
TOP40株価指数 (45,974.31)		(47,974.09) <b>7.75%</b>	(46,139.99) <b>7.75%</b>	(45,797.30) <b>0.39%</b>

### [スト決裂]

金属業界のストが交渉決裂。米ゼネラル・モーターズが操業停止に追い込まれるなど、景気低迷のさらなる足かせに。



## 中国

景気  
(実質)  
GDP

Q1GDP成長率  
**+6.7%**  
前年同期比

### [L字→h型景気]

非金融上場企業の財務状況が過去10年で最悪の状態。過剰在庫や不良債権抱える民間の固定投資が大幅減速。景気停滞と先行き減速で、「h型」景気か。

物価

6月インフレ率  
**+1.9%**  
前年同月比

### [やや鈍化]

豚肉が前年比+30.1%(5月は33.6%)など食品価格の落ち着きが主因。一方で、98年来最悪の大洪水発生の影響で、今後農作物の値上がりが懸念。

金融  
政策

**4.35%**

### [利下げ期待高まる]

景気下振れ懸念、低インフレの継続を受け、政府の追加景気刺激策や預金準備率の引き下げなど金融緩和期待高まる。

国際  
収支

5月貿易収支  
**+500**  
億ドル

### [マイナス幅縮小]

輸出(前年比-4.1%)輸入(同-0.4%)共に前年割れ続くも市場予想より良好。資源価格底打ちと共に内需回復の兆し。

### 〈騰落率〉

	(6月末)	1カ月 (5月末)	3カ月 (3月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1元=15.54円)		(16.83円) <b>7.65%</b>	(17.46円) <b>10.99%</b>	(18.52円) <b>16.09%</b>
対ドル (1ドル=6.64元)		(6.58元) <b>0.90%</b>	(6.45元) <b>2.98%</b>	(6.49元) <b>2.28%</b>

### [元安容認か]

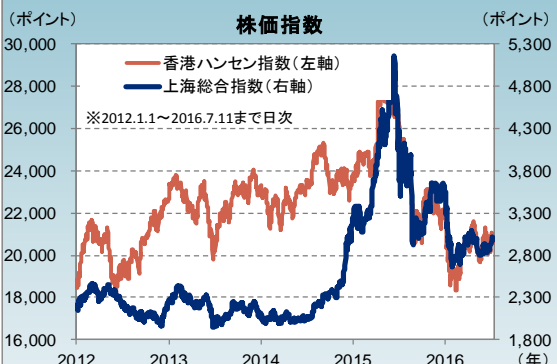
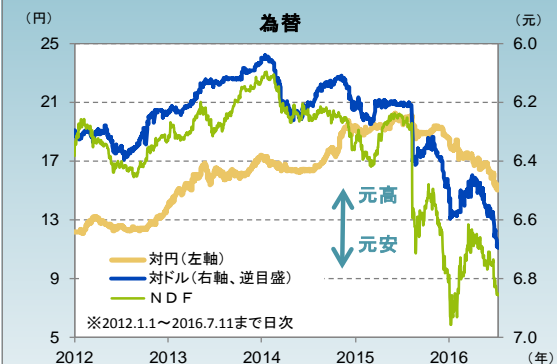
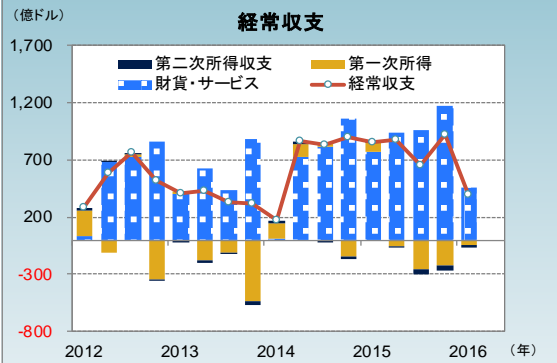
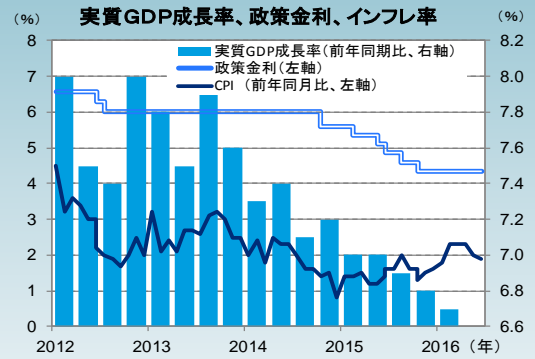
元安に伴い資金流出懸念広がる。6月末の外貨準備高は3.2兆ドルと5月末の134億ドルから急増。当局が元安容認との観測。

### 〈騰落率〉

	(6月末)	1カ月 (5月末)	3カ月 (3月末)	年初来 (15年12月末)
上海総合指数 (2,929.61)		(2,916.62) <b>0.45%</b>	(3,003.92) <b>2.47%</b>	(3,539.18) <b>17.22%</b>
香港ハンセン指数 (20,794.37)		(20,815.09) <b>0.10%</b>	(20,776.70) <b>0.09%</b>	(21,914.40) <b>5.11%</b>

### [規制改革]

中国本土の投資家は元安傾向を受けた逃避先として、香港ドル建てかつ株価割安な香港市場へ投資をする流れ。



## 当資料に関してご留意いただきたい事項

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。また、投資信託は預貯金とは異なります。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時: 購入時手数料[最高料率3.78%(税込)]

投資信託の換金時: 信託財産留保額[最高料率0.5%]

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.2312%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

### <ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

### 【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。